

戦争に加担しない

花谷 史郎（石垣市議会議員）

今回、沖縄のもう一つの基地問題「南西シフト」から見えるデモクラシーの課題についてお話しさせて頂くことになりました。

この機会を得られたことについて、関係者の皆様に感謝申し上げます。

皆様のイメージする沖縄の問題といえば、辺野古新基地をはじめとする在沖米軍の事を思い浮かべる方が多いのではないのでしょうか。

しかし、10年以上前から静かに始まり、昨年12月に閣議決定された安保関連3文書や防衛費増額とも関連する、既存の米軍基地とは別の「もう一つの基地問題」があることはあまり深く知られていません。

鹿児島県の奄美大島から沖縄島、日本最西端の与那国島まで続く「琉球弧」に、主に陸上自衛隊施設を配備強化する計画があります。

その計画は「南西シフト」と呼ばれ各島々で大きな問題として扱われ、多くの住民運動が巻き起こり、市民の分断を招いてきました。

長く粘り強く市民運動は続けられてきましたが、奄美大島、宮古島、与那国島に続き、今年3月16日に石垣島の基地（駐屯地）が開設されたことですべての新設の駐屯地が運用開始されたこととなります。

また、計画の中には沖縄島にある既存の自衛隊施設に、約1万人の増員も盛り込まれており、わずか数年の間にこれらの軍事強化が行われています。

今後も各施設は拡大強化される可能性が高く、与那国島ではすでに施設拡大に向けた動きが始まっています。

果して、これらの施設は石垣島などの島々を守ってくれるのでしょうか。

石垣島、宮古島、与那国島の駐屯地はミサイル部隊が中心とされており、これまでの専守防衛と言われた自衛隊施設とは一線を画す攻撃的な設備であるとも言われてきました。

これまで200キロ程度とされてきた自衛隊が保有する地对艦誘導弾は射程距離延長のための開発が行われており1500キロを超えるような射程距離を持つこととなります。

また、米国から購入されるトマホークも最大射程距離は3000キロとも言われ中国や北朝鮮などの近隣諸国はおろか、ロシア領土にも届きうるものです。

実際、昨年 2022 年 12 月に閣議決定された安保関連三文書では反撃能力（敵基地攻撃能力）が明記され、ミサイルなどで他国領土へ直接攻撃することが可能となっており、自衛隊の在り方はこれまでと一変したと言えます。

まして、国境の島々にこれらの長射程のミサイルを配備することが平和への道となるのか、甚だ疑問です。

私はこれまで石垣島で農業を営んできましたが、石垣島への自衛隊配備予定地が地元近くであると知らされ、これらの計画の概要を知り、地域住民として基地建設の反対運動に参加してきました。

しかし、住民の声は政府や石垣市にも届かず、疑問にもまともに答えない状況があり、それをきっかけとして地域の代表として市議会議員に立候補することになりました。

自衛隊配備をめぐる動きの中で、住民の分断を目の当たりにした若者たちが立ち上がり、自衛隊配備の賛否を問うための住民投票運動を展開しました。

そこでも民主主義が蔑ろにされ、石垣市の有権者の 4 割近い法定署名が集められたにも関わらず、住民投票は実施すらされませんでした。

石垣市の条例には、住民投票を求める法定署名が有権者 25% あれば、市長に実施責任がある旨の条文がありましたが、市長はその義務を果たさないばかりか、市議会与党は住民投票条例そのものを市条例から削除するという暴挙にも及んでいます。

なぜ、そこまで自衛隊の配備を急ぐのか、民意を無視してまで防衛費増額、安保関連三文書などを進めるのか。

理解しがたいことも多い中で、私のまわりで起きていることをなるべく正確に話したつもりです。

石垣市の行政区域で起こる尖閣問題や台湾有事が必要以上に煽られたものであることなどを簡単ではありますがデータを示しながら説明しました。

日本の端の小さな島で何が起きているのかを多くの方に知ってもらいたいと思い、講座を受けさせていただきました。

稚拙な話しではありますが、南西シフトと安保関連三文書や防衛費増額などを合わせてみると日本がどうなろうとしているのか理解するヒントになるかと思います。

ご視聴いただけると幸いです。